

公表

事業所における自己評価総括表(児発)

○事業所名	こども発達・子育て支援センター わくわくかん			
○保護者評価実施期間	令和7年12月1日		～	令和7年12月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	51	(回答者数)	48
○従業者評価実施期間	令和8年1月31日		～	令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	15
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの活動等のスペースを十分に確保し、発達段階に応じた遊びや活動を提供している	園庭や芝生、広いホールや充実した玩具等があり、室内外問わず思いきり身体を動かしたり好きな遊びを楽しむことができるよう配慮している。また、食育活動や課外活動、こども園との交流等も行っている。	子どもたちの様子や状況を踏まえながら個別対応や集団活動の幅を広げていけるような遊びや活動を提供し、安心かつ安全に遊び込むことができるよう関わっていく。
2	配置基準よりも多くの職員を配置し、様々な職種の職員がいる	保育士や児童指導員だけでなく、OTやST、看護師、公認心理士等様々な職種の職員が配置されていることで、様々な立場から子ども達との関わりや発達支援を行えるよう、振り返りや話し合いを密に行っている。	今後も様々な専門職の視点をもちより、子ども1人1人の特性に配慮し、発達段階に応じたきめ細やかな手厚い支援ができるよう、また、五蘊分析シート育ちのミカタを用いて支援の振り返りや検討を個々やチームで行っていきけるよう努める。
3	保護者同士の連携ができる場や相談できる場を設けている	保護者同士が情報交換や相談ができるよう公認心理士がファシリテーターとして定期的に時間を設けていたり、保護者会を開催して繋がりが持てる場を提供している。	子育てや子どもの発達、関わり方等の学習会などを含め、行事等積極的に保護者が参加できたり、交流を持てる場を設定するなどし、保護者への周知に努める。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放デイの移行支援に関して情報の開示が遅くなってしまう。	放デイの利用登録児童が多く、新規利用児の受け入れが難しい状況で、なかなか見通しをもって放デイの受け入れに対する情報の伝達が早期にできていない。	放デイの受け入れに対する情報を伝達していくことの計画的な取り組みを工夫していく。
2	各種マニュアルや訓練等の周知の不足	事故防止や緊急時対応、防犯や感染症対応等各種マニュアルを策定して、契約時や保護者会等で説明させていただいているが、周知しきれていない面や避難訓練等の周知が足りないとのこと指摘もあった。	保護者会や行事の際にする場を設ける、ICTを活用する等、周知するよう努めていく。また、避難訓練や災害時を想定した訓練等の周知ができるようお便りなどにも掲載していく。
3			